



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>  
Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)

## 居場所のひとこま

【つくって食べよう!】 中高生からいろんな料理を作ってみたいという声があがりました。コロナ感染の心配もあり中断していたのですが、話し合いの結果、「加熱するメニューにし



よう。食べるときは向かい合わず、十分に離れて、話はしないで...」という約束で再開することにしました。少し前から電子レンジが不調でしたのでオーブンレンジを購入(左)。

さて、メニューは、パスタいろいろ、ドライカレー、焼きプリン、チョコブラウニー...、多彩です。収穫したジャガイモもさっそくまな板の上へ。レシピ本も準備し、「高温で食材の色が変わるのは、コーヒー豆の焙煎と同じ。メイラード反応です」などしっかり読み込んでいます。せっかく作ったお料理を残しておこうと、小学生が写真パネルを作りました。感染に注意しながら、作れるメニューを増やしましょう。

作れるメニューを増やしましょう。



【はじめての画像検索】 6月半ば、「これ、校庭に落ちていた。何だろう?」。長さ7cmくらい、植物の芽かなあ。むむ、見たことがない...困った。そうだ、ネット検索をやってみよう!

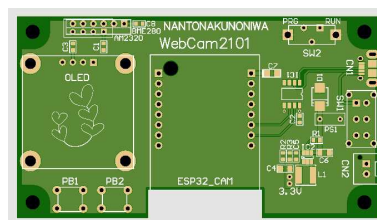
カメラで撮影して画素数を下げた画像をGoogle検索に送る。「これかな?」という候補がたく



さん出て来ました。

結論は、「ハクモクレン」の花の終わったあとにできる「果軸」というものらしい。画像検索の威力にみんなで感心しました。

【なんにわロゴ入り基板】 会員さんの協力で、「なんにわロゴ」入り、32ビットCPUのオリジナル基板ができました。



部品を取り付け、Webカメラや各種測定器をつなぎ、自作のプログラムを動作させることができます。居場所でも試運転し、WiFi経由で

動くことを確認しました。こんな小さなボードの上でWebサーバが動くことに感動。作ってみたい方は連絡を。

【感染に気を付けて...音楽を】 楽器に興味を持つ子どもたちとスタッフで、小さな演奏会になることがあります。ギター、ウクレレ、フラットマンドリン、エレキベースの練習を始めたメンバーも。全楽器での合奏はもう少し先ですが、リズムがぼつちり決まったときは気持ちがいい。ボーカルは...これも感染対策のため、声は小さめにマスク越し。リードギターでメロディをたどり、伴奏に合わせるより、歌うほうがずっと楽しいのと思いつつ、いまはガマンの「なんにわバンド」です。(手塚)

← 4月(前号記事あり)に植えたジャガイモ ポット栽培のキュウリも一輪車2杯を越える収穫がありました。 元気に育っています ↓

## 目次

居場所のひとこま(拡大版)	1
第17回 通常総会報告	2
ワラビの放射能測定(続き)	3
活動報告 / 居場所利用のお願い	3
こんな本はいかが?・54	4

## 子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)  
日時: 毎月第2月曜日(午前10時~12時)  
次回の予定は電話でお問い合わせください。  
参加費: 300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。  
(Tel: 090-3227-7079)



## 第17回 通常総会・報告

5月8日(土)午後1時30分より、「子どもの居場所」にて第17回通常総会を開きました。今年になっても新型コロナウイルス感染は収まらず多人数集まるとの開催が難しいため、昨年同様、総会資料(議案書)を会員宛送付し内容確認のうえ委任をいただくという形で総会を実施しました。

総会は予定どおりに始まり、正会員数:51名のところ、出席会員数:33名(うち表決委任者22名)により総会の成立(正会員総数の2分の1以上の出席)を確認いたしました。

「2020年度事業報告・収支決算」および「2021年度事業計画案・予算案」についての会員からの質問、返信はがきによる疑義はなく、全議案は出席者全員により承認され、「非常事態」の中での総会を終えました。会員のみなさまのご協力に感謝します。以下は本年度事業計画の概要です。

(紙幅の関係で事業名は短縮しています)

### (1) 居場所の提供と学びの場の運営

日光市委託事業「日光市子どもの居場所・学びの場」は9年目を迎えました。2021年度も引き続きスタッフ2名体制で実施します。学校長期休業中の平日も昨年同様に居場所を開きます。コロナ感染症対策についても同様に発熱チェック、マスク励行など基本的な対策を行いながらの開所です。

昨年度、居場所を利用した登録者数は15名(小学生13名、中学生2名)および高校生以上3名でした。開所日は前年度より10日多い237日、延べ479人(小中学生:273人、高校生以上:206人)の通所がありました。今年度に入り、7月現在10名(小学生4名、中学生3名)および高校生以上3名が来所しています。

### (2) 子どもたち一人ひとりに対応した学び

不登校傾向、発達障がいを持つ子を対象とした「学びサポート」を毎週金曜日午後7時から9時まで日光市民活動支援センターで引き続き実施します。現在の参加者は中学生4名、若干名の見学者もあります。各自希望教科の学習支援、簡単な実験、電子工作、ネット検索や音楽などに取り組んでいます。

### (3) インターネット、ITを活用した学び支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開。定期的な更新により、居場所の紹介、活動の紹介、自然環境についての情報などの発信を行います。昨年度、電子会議用のカメラおよびマイクを導入。遠隔地にいる会員とのオンライン交流も実現しました。また、プログラム可能なWiFi+カメラ付き小型PCボードを会員有志の支援により開発中です。

### (4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などを行います。感染症の影響が大きく、昨年度の相談件数は2019年のおよそ半数の31件、訪問者は24名でした。相談や居場所紹介をオンライン化できるよう、機器整備・スタッフ研修を進めます。通信「なんとなくのひろば」は3か月間隔で4回発行予定。各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布します。

### (5) 学校外で育つ青少年、障がいのある人の

#### 相談および就労支援

昨年は施設見学などのお出かけイベントは難しく、実施できませんでした。今年もベリー会への参加、「かがやき」、「だいじょうぶ」など地域支援団体との連携を取っていきます。

### (6) 自然の中での学び、自然環境保全活動

「居場所」では今年も大家さんの畑でのジャガイモ栽培(植え付け、管理、収穫作業)を子どもたちと行いました。「今市の水を守る市民の会」との共催イベントは秋の実施を検討しています。環境測定班の放射能測定は随時実施いたします。

### (7) 障がいの理解および啓発

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きます。気軽な雰囲気集まり、子育ての悩みを話し合う時間となっています。昨年度開催を見送った3月の勉強会については本年度後半の検討課題とします。

### (8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営 特定指定相談支援事業(さくらそう)

昨年度の「さくらそう」は相談支援専門員1名で130名ほどの計画作成・モニタリングを延べ200件実施しました。放課後等デイサービス・居宅介護・同行援護(視覚障がい者への移動支援)・福祉的就労にお繋ぎする支援が主でした。また、放課後等デイサービス利用のご家庭への支援で事業所とともに家庭児童相談所との連絡調整を行ない母親の出産のサポートを行ったこと、就労移行支援を利用した方が複数就職されていたことが印象に残っています。引き続き障害を持った方々への支援を行うとともに、他団体や個人に当法人の居場所事業や茶話会、学びサポートを紹介していきたいと思えます。

#### 相談支援事業(栗原理事の市役所出向)

今年度も市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」に栗原が出向しています。昨年度は予定されていた会議や研修が中止になりましたが、相談業務は例年と変わらず(むしろ多い)、125名の障がい者等の方から月に100件前後、年間1353件の相談を受けました。相談業務に待ったなし。感染予防に努めつつ訪問・通院同行を、いつも通りに行いました。昨年、印象に残っているのが「大人の発達障がい」の方の就労相談です。専門学校の先生からの相談でした。本人もそうですが、ご両親も今までどこにも相談できなかった様子です。手帳申請から通院の同行、本人に強みを気付かせ支援の受け方を教え、この4月に障害者枠での一般就労が決まりました。これで終わりではなく支援はまだまだ続きます。皆さんの周りでも困っている方はいませんか？

#### 役員選任について

第5号議案「役員選任の件」において、任期満了による、吉成啓子理事の退任、福田尚史理事の新任、栗原真佐美理事、白井佐智子理事、手塚郁夫理事、中島直弥理事、西尾敬子理事、丸本香理事、村上幸子理事、吉成勇一理事、以上8名の重任 および大久保みどり監事の重任が全会一致で承認されました。新役員の任期は7月1日より、2023年6月30日です。役員一同、よろしくお祈りします。(手塚)

#### 【福田 新理事からのあいさつ】

はじめまして。  
このたび理事に就任しました、福田尚史です。  
プログラミングに興味があり、「子どもの居場所」でプログラムで動くゲームやラジコン・ロボットを作っています。  
子どもたちといっしょに楽しめればと思っています。  
よろしくお祈りします。

# ☆ 活動日誌

4月21日(水) 2020年度 会計監査  
 4月25日(日) ベリー会 グループミーティング  
 4月26日(月) 通信「なんとなくのひろば」第63号 発行  
 5月 8日(土) 第101回 理事会、第17回 通常総会  
 5月10日(月) 茶話会(第107回)  
 5月11日(火) 2020年度 事業報告書提出(日光市地域振興課へ)  
 5月29日(土) 川むし調査会 田川(木和田島)  
 5月30日(日) ベリー会:月例会  
 6月14日(月) 茶話会(第108回)  
 6月20日(日) ベリー会:月例会(グループミーティング)  
 7月 1日(木) 第102回 理事会  
 7月 8日(金) 宇都宮法務局へ登記変更(理事変更)申請  
 7月20日(火) 役員変更届を日光市役所地域振興課へ提出  
 7月25日(日) ベリー会:月例会(グループミーティング)  
 7月26日(月) 通信「なんとなくのひろば」第64号 発行

## さくらそう関連の勉強会など

[2021年度・日光市相談支援専門員連絡会]

4月28日(水) および 5月26日(水) 本年度報酬改定について

6月23日(水) グループホーム紹介、7月29日(水) 野中式事例検討会

[2021年度・日光市障害者自立支援協議会]

令和3年度日光市障害者自立支援協議会

4月15日(木) 第1回事例検討会議、5月13日(木) 第2回事例検討会議、

6月10日(木) 第3回事例検討会議、7月 8日(木) 第4回事例検討会議

8月10日(火) 第1回 相談支援実務者会議(予定)



## 5月29日 川むし調査会にて(田川)

日時: 5月29日(土) 午前10時 晴れ

気温: 25.5℃ 水温: 17.5℃

場所: 日光市木和田島(田川)

川幅: 20m 水面幅: 15m 流速: 0.5m/秒

□ 環境省の指標生物による分類

水質階級Ⅰ(きれいな水) ヒラタカゲロウ、

ナミウスズミシ(プラナリア)、カワゲラ、他

水質階級Ⅰ~Ⅱ ヒゲナガカワトビケラ、

シロタニガワカゲロウ、チラカゲロウ、他

□ その他、見つけた生き物

マダラカゲロウ、モンカゲロウ、

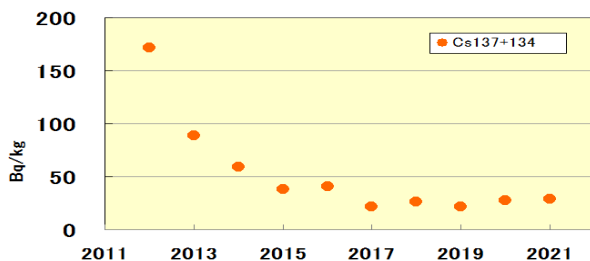
カクツツビケラ、ミヤマカワトンボ(ヤゴ)、

オニヤンマ(ヤゴ)、お魚: アブラハヤ、他

(まとめ: 今市の水を守る市民の会・塚崎)

## ワラビの放射能測定(続き) - 原発事故から10年 -

5月に採取したワラビについて、放射性セシウム濃度を測定しました。下図は今年の測定点を加えたグラフです。



今回の測定値はおよそ29ベクレル/kgでした。2017年以降大きな変化がありません。周辺土壤についても今までと同じ地表5cmを採取し天日乾燥後の測定値は約700ベクレル/kg。数値は昨年より15%ほど減少していますが、測定誤差を考えると「減っている」という判断は難しいのではと思います。

「このワラビ、食べて大丈夫なの?」とよく聞かれます。ネット検索をすると、「食品の基準は100ベクレル/kg」なので「だいじょうぶ」と書いてあるサイトがいくつもあります。しかし、放射能や放射線は化学的な毒物などとは違い「基準」よりずっと少ない量でも生体への影響はゼロではないという特性があります。そのため、「100」は「食べてOKの基準」ではなく「がまんの限度」を表す数値と解釈するのがよいのではないかと思います。「がまん」ですから、人によって判断が違って仕方がありません。さらに、放射能の濃度がわかれば「何ベクレル食べることになるか」という計算ができます。たとえばワラビの放射性セシウムが1kgあたり30ベクレルあるとします。「あく抜き」でセシウム濃度は半減することがわかっていますので、たとえば100g食べるとして  $30 \times (100 \div 1000) \div 2$  という計算になり、摂取量は1.5ベクレルになります。「がまん」の話、摂取量についての話は次号に書いてみたいと思います

このワラビは同じ場所で測定を続けているので、来年の春も、そして数年後も「キログラムあたり30ベクレル」と言って差し支えないと思います。けれど、他の場所のワラビについてはその場で採取したものを測定するしかありません。原発事故から10年が過ぎても問題になっている「山菜」、その他の食材についてもやはり放射能濃度の測定が判断の第一歩です。環境研究班は土壤や食材の測定を受け付けています。測定依頼や本稿に関する疑問など遠慮なくお知らせください。(三上・手塚)

## 居場所利用のお願い

新型コロナウイルス感染の広がりについて、まだまだ安心できない状況が続いています。感染症の終息まで、以下の点にご注意いただき、健康に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分~16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いいたします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。

**マスク予備、マスク苦手な人へマウスシールドを玄関に常備!**  
 相談はいつも受け付けています。電話またはメールでご連絡を

感染力、致死性が強い「変異ウイルス」が広がっています。新型コロナはいままでのインフルエンザと違い、「無症状の感染者が他の人に感染させる場合がある」という特性があります。「私は感染しているかもしれない、気付かないうちに周囲に感染を広げるかもしれない」と自覚し、人との接触を避ける行動を。

▼ 密な空間を避ける(互いに手の届かない位置で)

▼ 大声での会話、同室での食事をしない

▼ マスクをきちんと付ける を守りましょう。

空気清浄機を導入+窓を開け、空気入れ替えを行っています。



## こんな本はいかが？

### その 54 エリック・カールさんの絵本

今回は、今年5月に91歳で亡くなったエリック・カールさんの絵本を紹介します。多分多くの人知っている「はらぺこあおむし」。私もいろんなところでこの本の読み聞かせをやりました。

カールさんの絵本はどれも鮮やかな色彩で描かれています。そしてちょっとした面白いしかけがあります。

◎「**ごきげんななめのとんとうむし**」 もりひさし・訳 偕成社 1998年  
小さくて愛すべき、ごきげんななめのとんとう虫が主人公です。朝6時から夕方6時まで、次々と大きな相手にけんかをしかけていきます。そして、はらぺこでふらふらになったてんとう虫が最後に出会ったのは…？けんかの相手が少しずつ大きくなっていくのに合わせて、ページも大きくなります。子どもたちが喜んでくれる一冊です。

◎「**どこへいくの？ ともだちにあいに！**」 いわむらかずお作  
“Where Are You Going ? To See My Friend !”

エリック・カール作 童心社2001年

この絵本は、いわむらかずおさんとカールさんが合作で作った絵本です。右からいわむらさんの絵本、左からエリックさんの絵本。真ん中でたくさんのお友達が出て、みんなで一緒に歌っておどります。とてもとても楽しい絵本です。

◎「**月曜日はなにたべる？**」 もりひさし・訳 偕成社 1994年  
この絵本は、アメリカのわらべうたの楽譜がついていて、歌いながら見る絵本になっています。歌いながらページをめくっていくと…？おなかのすいた世界中の友達が待っています。

エリック・カールさんの絵本はとにかくみんなに優しいです。たくさんのお絵本が出版されています。図書館などで探して、ぜひ読んでみてください。

(白井)

## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員：51  
賛助会員：15  
団体会員：4  
入会金なし

年会費(一口)  
正会員 3,000円  
賛助会員

個人 5,000円、団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。



## なんとなくのへや

ソフトウェア業界はOS(基本ソフト：オペレーティングシステム)やアプリ(ワープロや表計算ソフトなど)のライセンス料で稼ぐ巨大企業という印象があります。しかしいっぽうで、高額なアプリと同等の機能を持つソフトウェアをボランティアが管理し、誰でも自由に使用でき、改造も可能な「オープンソース」というスタイルも並行して存在する世界です■1989年、スイス・ジュネーブの欧州素粒子原子核研究所「CERN」でひとつのアイデアが生まれました。ネット上に散らばった論文を自由に閲覧したい、さらに論文内にある引用文献も追跡したい…。いま誰もがお世話になっているWWWの原型です。構想はすぐに実現し、開発した研究所は仕様や仕組みをすべてオープンソースとして公開しました。もしWWWを考案し、世界ではじめて稼働させた発明者 Tim Berners-Lee氏が特許を取得してライセンス権を行使していたとしたら、インターネットの世界は今とはだいぶ違った姿になっていたでしょう。「研究によって得られた知識は人類の共有財産」という自然科学の精神がソフトウェアの世界にも流れているのです■プログラム開発のための道具やプログラム言語環境の多くはネットからダウンロードするか、Web経由のサービスにより無償で使うことができます。OSについても、Windowsは有料ですが、UNIXから派生したLinuxは一部を除いてライセンスフリーで、科学研究分野でも盛んに使われています。複雑で大規模なフリーソフトの維持管理は、資金面の困難を抱えながらも、多くのボランティアによって支えられています。いま、手軽にプログラミングを楽しめる背景には「公開・共同」という科学の理念が生きているのです。これからプログラムを学ぶ子どもたちに知らせたいことのひとつです。(T)